

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	観光型ホテル（経営者）	・5、6月の予約状況が昨年より良く、特に6月の予約状況は昨年の約2倍となっており、売上は上がる。
	やや良くなる	百貨店（売場主任）	・客の消費に対する意欲が高い。
		百貨店（販売促進担当）	・客のファッションやライフスタイルに対する感覚が高まっており、正価販売品が着実に伸びている。一方でセールは、仕掛け方を工夫しないと前年確保が難しい。
		百貨店（営業企画担当）	・客の消費動向は、質への追求が大きくなっている。
		スーパー（店長）	・新館がオープンし、来客数が非常に増えており、売上も上がる。
		スーパー（総務担当）	・ここ数か月間、衣料品、住居、食品とも前年比をクリアしており、今後も好調に推移する。天候も比較的良好で、天候に左右されやすい衣料品も好調に推移している。
		コンビニ（店長）	・来客数が衰えない。
		衣料品専門店（総務担当）	・今まで落ち込んでいたミセス婦人服が、前年より大幅増になっており、ミセス客の増加で今後の売上も期待できる。
		家電量販店（店員）	・サッカーワールドカップも間近に迫り、デジタル家電への需要がさらに高まる。
		家電量販店（企画担当）	・西日本地区は地上デジタル放送に対応するテレビの買替え需要が進んでおり、サッカーワールドカップを間近に、ますます売行きが良くなっている。
		高級レストラン（経営者）	・ゴールデンウィーク明けの予約がそこそこ入っており、5月からは大分の特産である城下かれいが旬になり、それを目当てにした客も増える。
		一般レストラン（スタッフ）	・休日に、県外ナンバーの車が増えてきた。
		通信会社（管理担当）	・年度始めではあるが、来客がとぎれない。
		テーマパーク（職員）	・7～8月は年間で一番にぎわう時期である。サマーステイプラン以外のゲストプログラムなども立ち上げており、前年以上の伸びが期待できる。
競輪場（職員）	・発売額、来場者ともに昨年の水準を保っており、回復の兆しが見える。		
設計事務所（所長）	・手持ちの設計が増えているのに加え、企画、計画の相談も増えつつある。		
変わらない	商店街（代表者）	・ネットとの価格競争に陥り、商店街は厳しい。高額商品ほど下落の一途をたどっている。	
	商店街（代表者）	・商品単価が上がらず、安価なものばかりが売れている。	
	商店街（代表者）	・郊外に大きな商業施設があり、土日は駐車場も満車である。商店街は来街者が少なく売上も落ちており、このままの状況が続く。	
	一般小売店〔青果〕（店長）	・客の購買意欲を高めるプラス材料が全く感じられず、現状維持が続く。	
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・北九州各地で大規模・中規模スーパーが開店する予定がある。既存の零細小売店はさらに厳しくなる。	
	百貨店（営業担当）	・来店動員が見込める物産催事や店外ホテル催事も前年確保に留まっている。	
	百貨店（販売促進担当）	・客単価が極端に下がり、セール品や割引商品の動きがよくなっている。	
	百貨店（売場担当）	・店頭の婦人ミセス関係で買い控えがここ2、3か月続いている。2か月間、前年を割っており、来客数も伸び悩んでいる。他店の状況を聞いても、伸び率が3月までに比べると若干勢いがいない状況である。	
	百貨店（業務担当）	・衣替えのこの時期に動きが低調であり、最盛期の盛り上がりも期待はできない。	
	スーパー（店長）	・衣料品を中心に、ずっと厳しい状況が続く。食品に関しても郊外型の大型店の影響で、日曜日の売上が前年比85%まで落ちている。	
	スーパー（店長）	・新生活や新学期関連等、晴型の商品に関してはブランドやデザインを優先して購入しているが、食品や日用品においては価格に敏感になっている。	
	スーパー（総務担当）	・消費購買力が低く、原油高によるガソリンの高騰などの懸念材料もあり、今後も期待できない。	
	コンビニ（エリア担当）	・客が無駄なものに手を伸ばさない状況が、依然続いている。	

	コンビニ（販売促進担当）	・量販店は、来客数は増えているが価格の競争激化により客単価が落ちている。それに付随して買上点数も横ばいであり、2、3か月先までこの情況は続く。	
	乗用車販売店（従業員）	・新車の受注台数が増えない。	
	乗用車販売店（販売担当）	・販売量は伸びていないが、単価は若干向上しており、先行きはやや良くなる。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・宴会の予約状況は特に好調ではないが、実際の予約も考えられるため、景気は変わらない。	
	タクシー運転手	・人の動きが大分良くなった。ただ単価は下がりつつあるため、このままの状態が続く。	
	タクシー運転手	・大分市内に新しいビジネスホテルが何件かオープンしたため、人の動きが良くなる。	
	通信会社（業務担当）	・5月以降も携帯市場を活気付けるほどの新商品やサービスも期待できず、夏場まで来客数及び販売数は伸びない。	
	美容室（経営者）	・2～3か月先は、おしゃれの質が変わってくるので、新しい商品、新しい化粧品等の販売が始まるが、今ひとつ伸び悩んでいる。	
	設計事務所（代表取締役）	・公共事業など従来の建設事業では、受注の向上は見込めない。サービスに付加価値を持った業者とそうでない業者の格差が生じる。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・郊外の大規模商業施設がリニューアル拡大オープンをするため、中心商店街はその打撃を受ける。	
	百貨店（営業担当）	・小売業だけを見ると、郊外大型店の影響が強く、中心商店街への来街者の減少度合いはますます強まっている。	
	百貨店（営業担当）	・今年も昨年同様クルーズの動きがある。また、雇用関係も良くなってきたので、今後半年、1年先というところで、個人消費にも回ってくる。	
	百貨店（営業担当）	・原油価格の高騰が、ガソリン価格や電気・ガス代等に影響を与え、富裕層を除く個人の消費意欲を減退させている。	
	スーパー（店長）	・原油の高騰から石油製品の高騰が考えられ、今後は経費を圧迫する。またガソリン等の値上げにより、生活必需品の食料品の買上が少なくなる。	
	スーパー（企画担当）	・3月、4月にオープンした競合店の低価格攻勢の影響が大きく、食品や薬品・化粧品・家庭消耗雑貨等の日用雑貨の不振が続く。	
	家電量販店（店員）	・競合店の移転オープンを6月に控え、さらに競争が激化する。	
	一般レストラン（スタッフ）	・レストランの一番の売りは地ビールであるが、地ビールにかかる税金が大きく、思い切った安売りができない。地ビールが高級品であるという認識、高級品には手が出ないという客が多く、地ビール離れが進んでいる。夏のビール消費も今までより良い方向に進むのは難しい。	
	都市型ホテル（副支配人）	・予約の状況が3か月先ではなかなか入ってこない。	
	通信会社（企画担当）	・キャリア通信事業者の破綻により、仕入れコストの大幅増が避けられない。	
	美容室（経営者）	・空き店舗が最近かなり急速に増えており、当店でも来客数が減っている。	
	悪くなる		
企業動向関連	良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関係のメーカーが車載用の生産に入っており、受注価格がメーカーとしても上がっている。生産量も今後、相当増えると予測されており、自動車と半導体の両面から景気は非常に安定する。
	やや良くなる	家具製造業（従業員）	・二極化が進み、競合相手も絞られてきた。全体の動向としては物件量は増えているので、受注の確率も上がっている。
		鉄鋼業（経営者）	・販売価格の下げ止まりが見られる。鉄くず価格の上昇、中国、韓国、台湾など近隣諸国における製品価格の上昇など、価格反転への潮目の時期である。今後新規物件に対する買いが入る見込みであり、市況は好転する。
		一般機械器具製造業（経営者）	・当分はこのまま受注量の高い状態が続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・電子部品関連、半導体関連の総合的な面において現在は調整段階に入っており一服感が出ている。先行きに関しては大手ユーザーの動きがやや良くなるという回答を得ており、一般的な機械部品、並びに総合的な製造に関しては先行き少し明るい見通しである。

	精密機械器具製造業（経営者）	・景気が良くなっているのは間違いない。特に新製品に対する受注が少しずつ増えている。	
	金融業（営業担当）	・取引先である中小企業の売上高が前年比で増加しており、資金需要が出始めている。	
	不動産業（従業員）	・オフィス部門、商業施設部門ともに賃貸業が堅調である。	
	経営コンサルタント	・酒類の販売金額が上昇している。	
変わらない	食料品製造業（経営者）	・納入先の来客数はやや伸びているが、客単価が若干減少しており、売上に大きな変化はない。納入先は南九州への観光客をメインターゲットにしているが、誘客の材料に乏しいことから楽観できる環境ではない。	
	繊維工業（営業担当）	・受注のほうは安定しつつあるが、原油が高くなったことで、原材料や運送代も値上がりし始めたので、3か月先も変わらない。	
	輸送業（従業員）	・やや荷動きが鈍くなっている。軽油代が再び上昇を始めており、経営環境に厳しさが増しつつある。	
	金融業（得意先担当）	・法人の貸出金は伸びていない。しかしながら個人向けの貸出については問い合わせ等が多くなってきており、若干の改善が見込まれる。しかし総合的に判断して現状維持である。	
	広告代理店（従業員）	・チラシ枚数が、年度が変わったとたん減少し始めた。3月末まで順調に伸びてきたが、5月のゴールデンウィークにチラシを集中させる為に出稿を控えている。しかし業種的には、遊戯関連のチラシが全体の27%程度占めている。	
やや悪くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・イベントが一段落した関係で、新規品が期待できない。見積もりも少なく2～3か月先が見えない。	
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・年度始めであるため、受注は減少している。2～3か月先もこの状況が続く。	
	輸送業（総務担当）	・今年の衣料品の生産計画は今年の半分と聞いている。生産が悪くなれば、当然販売量も少なくなるため、今期はあまり良くない。	
	その他サービス業〔物リース〕（役員）	・原油高の影響はそれほどないが、金利上昇の影響が少しずつはあるが企業収益に影響し始めている。特に当社は借入で回っている会社であるため、調達金利の上昇が収益に跳ね返っている。	
悪くなる	建設業（従業員）	・公共工事は一般競争入札が主流になり、受注するのが大変困難である。民間工事は、見積り件数が増えているが、採算面で大変厳しい。	
雇用関連	良くなる	民間職業紹介機関（職員）	・年初より求人数が急激に増加している。昨年までエンジニア主体での募集がメインだったが、現在は経営幹部、管理部門等の中高年層人材の採用枠が伸びている。
		民間職業紹介機関（支店長）	・金融関連の需要は引き続き増大傾向にある。自動車・半導体関連の民間設備投資の増大が好影響を及ぼす。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・コールセンターなどの需要が引き続き好調である。
		職業安定所（職員）	・非正規社員の求人ニーズが全体を押し上げる構造は続いている。
		職業安定所（職員）	・求人は増えているが、不安定雇用が増えている。
		職業安定所（職員）	・求人数の大幅な増加はないが、小売・サービス業種を中心に伸びている。また、事業主都合の離職者数が減少している。
変わらない	人材派遣会社（社員）	・今年度に入り派遣の契約は、長期を中心に成約率が上がっている。年度始めから長期の成約、稼働率が順調に動き、景気はやや上向きである。	
	人材派遣会社（社員）	・企業担当者が再雇用制度とあわせ拡大路線と平行路線の両面を持ちつつ様子を見ている。	
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・石油卸値の引き上げの影響で産業界に悪い方向に働く。	
悪くなる	-	-	